

令和2年度 第2回大豆島公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和3年3月1日（月） 午後1時30分から3時まで
- 2 場 所 大豆島公民館 多目的ホール
- 3 出席者 臼井 和幸 （大豆島地区住民自治協議会会長）
久保田 学 （市立大豆島小学校校長）
久保田 宗雄（大豆島公民館副館長）
小池 伸幸 （大豆島保育園園長）
正村 寿満子（公募委員）
西沢 節 （学識経験者）
西澤 真利子（大豆島地区更生保護女性会会長）
広瀬 一雄 （大豆島地区民生委員児童委員協議会会長）
山崎 ひろ子（大豆島地区赤十字奉仕団委員長）
高池 一昭 （市立大豆島公民館館長）
白石 洋一 （市立大豆島公民館係長）

4 審議事項

- (1) 令和2年度大豆島公民館事業報告について
(2) その他

5 審議内容

長野市立公民館条例第15条の規定により、委員の過半数の出席を満たしており審議会は成立していることを報告して開会した。

- (1) 令和2年度大豆島公民館事業報告について

事務局 （令和2年度大豆島公民館事業報告について事務局から説明）

委員 市民運動会の代替イベントとして実施した「家族でふれあいウォークラリー」（以下、「ウォークラリー」という。）は次年度も開催するのか。

事務局 先月の地域公民館役員会で次年度の公民館事業計画について検討したところ、しばらくは新型コロナの影響が続くと予想されることから、市民運動会の開催は困難だろうというのが大勢であった。また、各地区では5月頃から（10月に開催される）運動会の選手集めが始まるが、直前で中止の判断をするよりも、先を見通して事前に中止の方向性を出した方が、地域公民館の負担が少なくてよいのではないかという考え方も示された。

以上を踏まえて運動会は一旦休止し、（コロナ禍でも）できる種目とできない種目を検討・研究していずれは復活させたいと考えている。ワクチン接種の進捗状況を見極めて検討していく。

委員 運動会は楽しいが、地域公民館役員の選手集めが大変である。ウォークラリー

後の公民館役員の声にもあるが市民の自発的な参加がよい。私もウォークラリーに参加したが「運動会よりもよい」という大勢の参加者の声を聞いた。運動会には良い面と悪い面がある。市内で運動会をやらない地区があるのも事実。今後でも継続するか、順次変更していくか検討する時代になっている。

事務局 選手集めの苦勞も大事である。ご近所と会話したり接したりする大切な機会である。ただし、行事は自ら参加したいと思える内容がよい。ウォークラリーで「大豆島甚句」の法被を着たチームや家族おそろいのTシャツを着て参加してくれたチームもいたのに、コロナ対策でチームごとに時間差で受付やゴールの時間を設定したため、大勢の参加者に見てもらうことができなかった。この点が一堂に会して盛り上がり共有できる運動会と比較して劣るところ。

委員 学校で運動会が無くなっても、幅広い年齢層が参加する地区の運動会が残れば価値があるので、市民運動会も復活してもらえたらよい。子どもや地区の負担にならないように学校と連携して開催できたらよい。

委員 次世代育成支援事業の「まめっ子広場」と「まめっ子サロン」は9月から再開することができた。再開した頃は、子どもたちも落ち着きがなく泣いている子どもがいたが、回を重ねるごとに落ち着いてきた。コロナ禍で参加できる行事が無かったので「大豆島公民館の取り組みはありがたい。」という保護者の声があった。他地区の参加者からも喜ばれた。

委員 子ども同士、保護者同士の友達のつながりは、他地区からの参加でさらに広がる。

委員 「史跡めぐり」は、今年度は中止になったが今後は継続するのか。

事務局 史跡めぐりは、一旦休止としたい。理由は二つ。一つは、講師を長年依頼していた方がお亡くなりになったため、代わりに依頼できる講師を探さなければならないこと。二つ目は、100人規模で、貸し切りバスで移動したり昼食をとったりすることはしばらく困難であること。

史跡めぐりは、年度初めに地域公民館役員の親睦と結束を深める意味合いもある。楽しみにしている人がいるのも事実だが、多くは地域公民館役員が動員で参加している感があり、中止を求める声も以前からあった。こちらも一旦休止して、今後のあり方を検討していきたい。庁用バスを利用した館外研修との統合も検討したい。

(2) その他

事務局 (長野市交流センターモデル試行の中間報告について事務局から報告。)

委員 交流センターになると運営主体はどうなるのか。

事務局 公民館の名称が交流センターに変わり、公民館職員が交流センター職員として運営する。